

1-5

ボランティア（町田市民大学）との新たな関係を目指して

ボランティアパワーによる個別援助の拡充を

資源活用

質の向上

特別養護老人ホーム 清風園

生活相談課 北川達三

管理課 染谷知里

東京都町田市金井7丁目17番13号

TEL: 042-735-3000

E-mail seifu@san-ikukai.or.jp

FAX: 042-734-8933

URL <http://www.san-ikukai.or.jp/machida/seifu>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

社会福祉法人賛育会が母体である清風園は、創立43周年を迎えた、都内でも2番目に古い施設です。現在は、110床の特養に3床のショートステイ、他にデイサービス、グループホーム、訪問看護、訪問介護が併設された複合施設です。

〈取り組んだ課題〉

- 町田市民大学講座の受入れ（今年で4年目）
- 講座受講生からボランティアへの育成
- ボランティア活動の継続性と個別援助の充実、向上
- 外部の新鮮な視点・意見の取り入れ

〈具体的な取り組み〉

- 生活相談課による受入れから、横断的な委員会である人材プロジェクトチームを立ち上げ、組織全体での受け入れ体制を確立する
- 市民大学の受け入れのノウハウを活かして、事業所全体でのボランティア受け入れへと繋げていく。
- 市民大学講座プログラムは、福祉や介護の理解を深めて頂く内容や将来ボランティアとして活動する為のあしがかりになるものを、施設側で策定している。（高齢者疑似体験・行事参加等、ヘルパー養成講座に近い内容を組み込んでいる）
- ボランティアを希望する受講生への、個別相談やフォローアップの実施。
- ボランティアからのニーズの把握。直接的な援助希望に対する施設内での認識の共有。
 - 直接援助の活動内容の明確化
 - ボランティアの活動しおりの改定
- ボランティアグループに対する活動支援（ボランティア交流会の定期実施）
 - ボランティア活動から見えてきたこと
 - 他グループとの連携や市役所への提言
 - 介護員とボランティアのコミュニケーション向上に向けて。
- 町田市との連携の強化

〈活動の成果と評価〉

- あおぞら、そよかぜ、わかばボランティアグループの立ち上げに成功。（個別から集団への移行）
- 3グループの年齢や特技を生かしての活動内容の策定により、サービスの質の向上に繋がっている。
- ご利用者の外出の機会が増え、外出先の選択肢が増えたことによる生活の幅が広がった。
- 直接援助活動への参加によりマンネリ化していた作業や介助の場面でもあったが、ボランティアに活動内容を教えることにより職員のモチベーションの向上につながった。
- 職員とは異なる年齢層のボランティアの活動により、ご利用者の安心感が深まり、身近な相談相手ができた。
- ボランティアからの要望により、新しいボランティア活動が生まれた。
- ボランティアの意見を吸い上げる機能が充実したことによって、ボランティア自身のモチベーションも向上している。
- 施設の社会化、地域との繋がりが深まった。

〈今後の課題〉

- ボランティアの参加意欲の維持継続の方法について
- ご利用者、職員、ボランティアそれぞれのニーズを把握しご利用者のニーズに則した個別ケアの実現
- 町田市民大学を活用しての地域との連携の模索。
- ボランティアがボランティアを呼び込む為の工夫
- 第二清風園との協力により市民大学の講座内容の拡大